



タブレット端末を使った読み書きの支援

～今、目の前にいる子の「わかった!」を目指して～



松江市立 意東小学校
井上 賞子



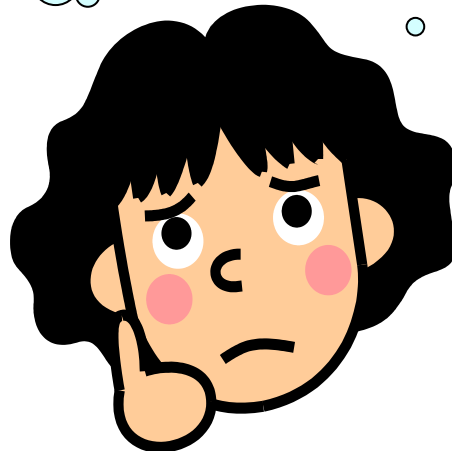
あの子はいつも・・・

やる気がない

• さっき言ったばかりなのに、すぐ忘れる。

自分が悪いのに逆ギレする

なかなか始めない



「なぜだろう?」「どうしたらいいのかな?」

そんな体験を重ねていたら？

•また僕ばかり
叱られるんだ

信頼関係の喪失

もういい

意欲の低下

どうせ僕は
できない

自信の喪失

聞くと「またか」とい
われるから
ごまかそう

不適切な態度



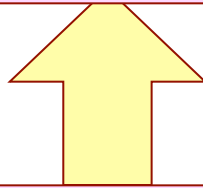
「なぜ？」から困難の背景に 目を向ける

- 「漢字の定着が進まない」という同じ現象でも
- • 空間関係のとらえに困難があるのか
- • 構成を分解したり統合したりすることに困難があるのか
- • 細かな情報を落としているのか
- • 視覚的な記憶に困難があるのか
- • 不器用さの困難があるのか
- • 怠学の問題なのか
- • 等等など・・・

その困難が生じている背景によって、
手立ては違ってくる

支援学級では

次の課題



解決できる課題

今の力

- ・ 解き切る体験
- ・ 意欲と自信
- ・ 見通し

通常学級では

学年の課題

授業参加への支え

今の力

学ぶ機会を失わせない

授業参加を支える

授業



- 学校生活の中心
- 評価の場
友達から
先生から
自分に対して



**授業に参加できるかは、
自己肯定感を支え適応を促す上でも重要**

授業参加を支えるために

一斉指導の中で

伝わりやすい提示	理解への助け
確認の方法	自己解決の手立て
既習事項への支え	変化のある活動
環境の整備	ルールを共有する

先行学習
手立ての見直し
トレーニングの
活用

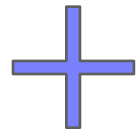
↑ ↓
個別の場

つまづきの把握
手立ての見直し
肯定的な評価
定着へつなげる

意欲を支え・手立てを生かす

教具を作る時に考えていること

- 困難な部分の負担を軽くする
- 他感覚を利用する
- 好きなことや得意な部分を生かす
- 授業参加を支える



☆どこで使うか(個別か一斉か)

☆どう使うか(個人か数人か全員か)

☆作成と使用の容易さ

☆予算

etc.

解決の手立てがあるか

解決の方法が見えているか

やり終えられるか

やり終えられると感じているか

その子にあった手立てが見つかる ことで

•これがあれば
できるよ

わかったぞ

もっとやり
たい

とくいに
なったよ



自己肯定感と学習意欲を支える

その子にあった手立てが見つかることで

•がんばれる方法
があったんだ

今まで困っ
ていたんだ
ね

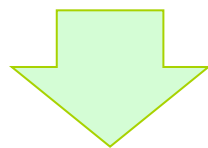
ここが苦手
だから、で
きなかつた
んだね

他の場面
でも考えてみ
よう

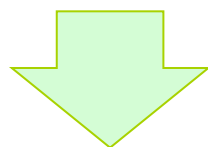


困難の背景を意識した児童理解と次の支援への広がり

何に困っているか
現象



なぜそうした困難が生じるのか
困難の背景の予想



どんな支援が必要か
手だて(含教具)→iPadも選択肢の1つ!

I P a dの活用状況

○活用の視点

学びきる手だてとして

学びやすさを支える手だてとして

学び方の特性の仮説につなげる

活用の際気をつけている事

魅力的なツールだが万能ではない
ことを忘れずに・・・



目的に照らして、効果的に使う

他の方法とも柔軟に組み合わせる

☆ 「iPadありき」 「iPadを使うために」 は本末転倒と自戒

漢字の学習で
活用している4年時のBさん



学びやすさを支える
手立てとしての活用

Bさんの日常の漢字使用の状況（3年の終わり）

- 見て書くことはできるが、文章を書く際に思い出して書くということには困難が大きかった。
- 毎日書くような字でも、なかなか定着しなかった。
（毎日同じ字を直していた）
- 連絡帳では、教科の名前は予定表を見ながら書くので漢字で書けるようになってきている。
- 「今日」は漢字で書くようになってきた。
- 「ここは漢字だよ」だけでは直せず、メモや横に赤ペンでお手本を書くと直してこれた。
- 「直す」ことが嫌いで、「ここを直そう」と言われると涙が出たりりぐずり始めることもよくあった。

【Bさんの目標】

使う頻度の高い漢字の定着が進む

app 大辞林・筆順辞典・7notes for iPadを活用



手書き入力を利用して、

- ・読み方がわからない時
- ・漢字がわからない時

自分で調べて解決につなげる。

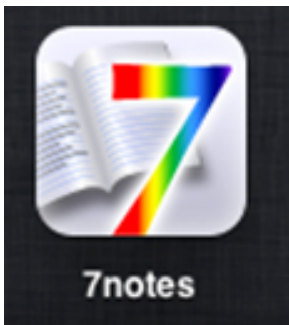
メイン
で使用



大きな表示を利用して、

- ・視覚的に確認する。
- ・なぞって、線の位置関係や数を体感して確認する。

補助
で使用



手書き入力を利用して、

- ・漢字がわからない時

自分で調べて解決につなげる。



例解学習国語辞典

- 教科書体→お手本として使える
 - 全ての漢字にルビがついている
 - 学年の登録をすることで表示される漢字が変わる
 - 出てくる語彙が少ない
- ※ 「かえって」がひけないのは同じ

③自分で調べて、書き直す



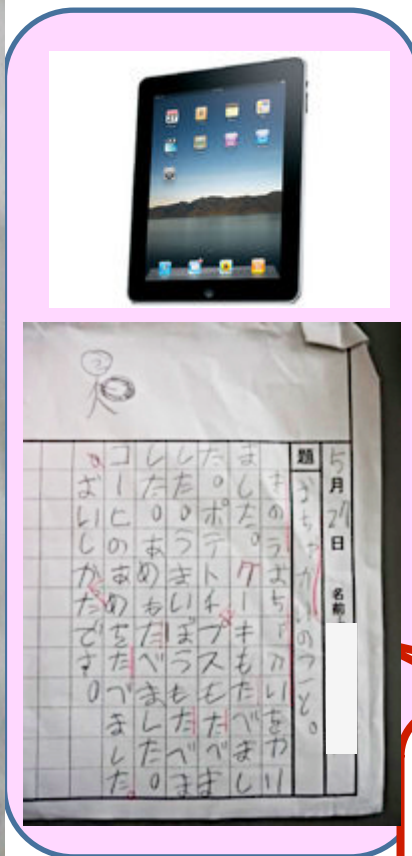
				題
コ	し	した	ま	昨日 の 茶会 の つーと。 を か り
し	た	た	の	
た	た	の	ポ	
た	の	あ	う	
の	あ	め	ま	
あ	め	ま	ト	
め	も	い	キ	
め	も	い	キ	
ち	食	ぼ	プ	
ち	食	べ	う	
べ	ま	も	も	
ま	し	食	食	
した	た	べ	ま	
た	の	ま	ま	



ま
の
う
ぶ
ち
か
か
り
を

①提出された日記

				題
し	した	ま		昨日 の 茶会 の つーと。 を か り
た	た	の	ま	
た	の	ポ	た	
の	あ	う	テ	
あ	め	ま	ト	
め	も	い	キ	
め	も	い	キ	
ち	食	ぼ	プ	
ち	食	べ	う	
べ	ま	も	も	
ま	し	食	食	
した	た	べ	ま	
た	の	ま	ま	



②漢字に直す部分に赤線を引き、iPadと一緒に渡す

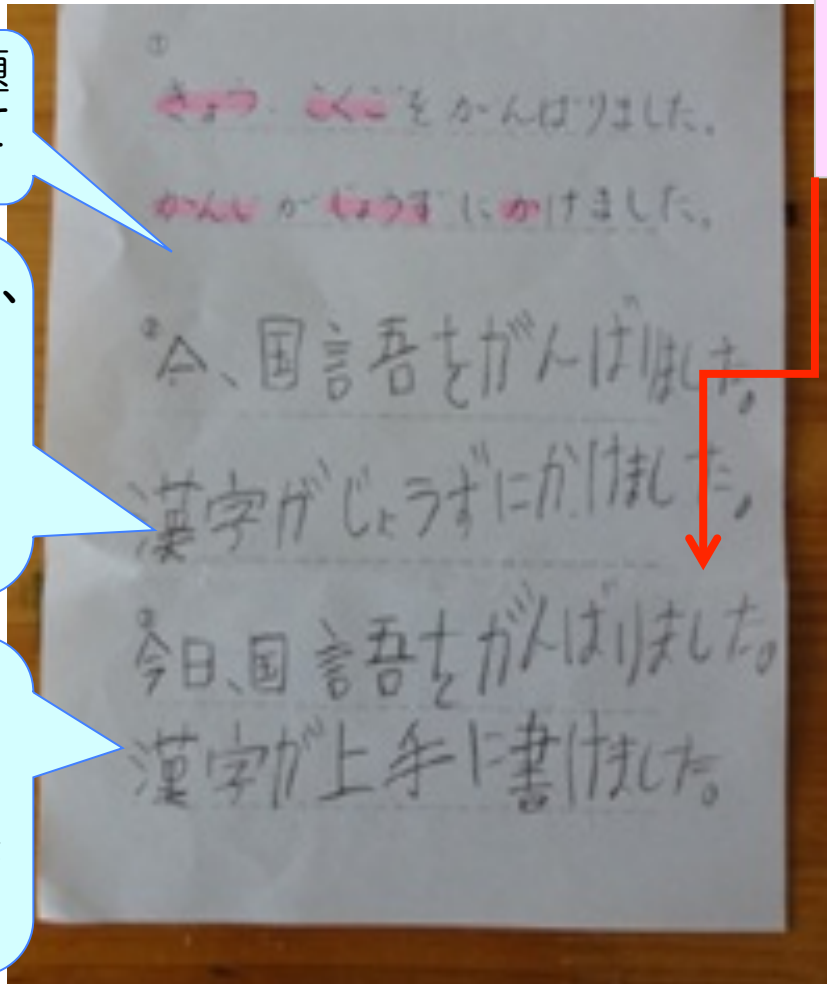
定着に向けて

3回短文プリント

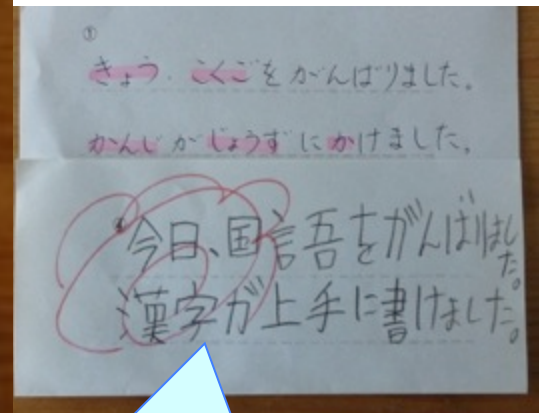
① ひらがなで課題になる文を書いておく

② 課題を見ながら、まずは思い出して書いてみる。わからないところはひらがなのままでもいい

③ わからなかったところ、間違ったところを大辞林で調べて、正しく書く

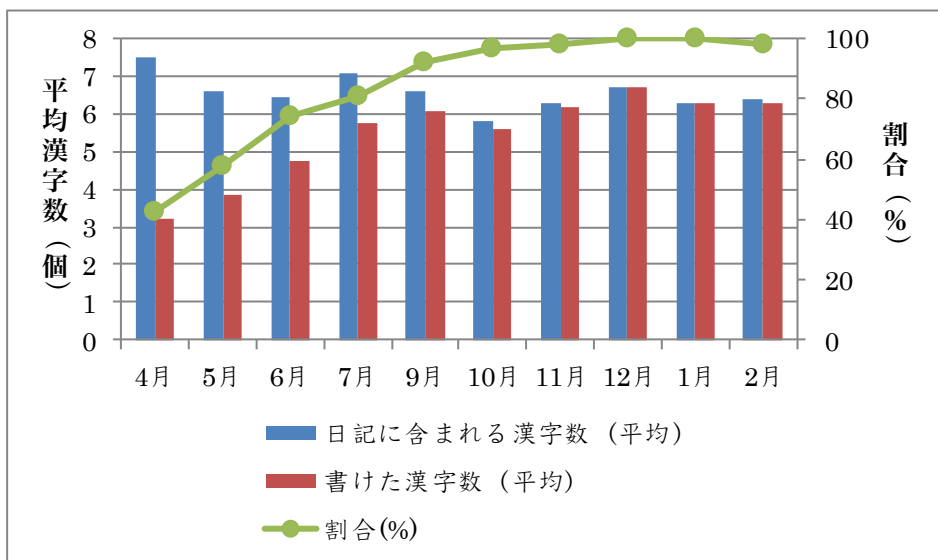


ここを折り返して、
②③が見えないようにして思い出して書く



②③で書いた正しい漢字を思い出しながら書く。わからなくなったら、③を見返してもいい。

振り返り日記の状況

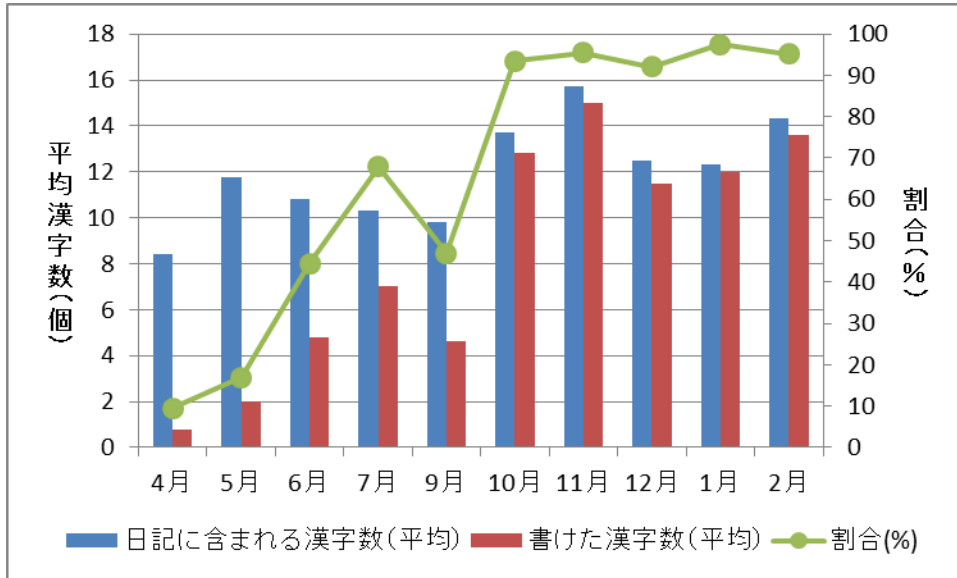


4月、5月にかけて漢字のほとんどは「今日」と「算数」「国語」などの教科名。「今日、国語をがんばりました。」というような書き出しが多く、そこだけ漢字で書けていたが、毎日のように出てきている「楽しかった」「行きました」等はずっと書けなかった。

漢字にするべき文字数は、6～7文字でほぼ横ばい。書けた漢字の割合は、上がってきている。

	漢字の平均文字数	書けた漢字数 (平均)	割合 (%)
4月	7.5	3.1875	42.5
5月	6.61	3.83	57.94251
6月	6.45	4.77	73.95349
7月	7.08	5.75	81.21469
9月	6.6	6.1	92.42424
10月	5.8	5.6	96.55172
11月	6.3	6.2	98.4127
12月	6.7	6.7	100
1月	6.3	6.3	100
2月	6.4	6.3	98.4375

週末日記の状況



振り返り日記では、4月でもほぼ書けている「今日」も週末日記では書けないことが多かった。直す時「『今日』は書けるでしょう？」と言うと、「あっそうだった」と思い出して直せた。本人に聞くと「なんでかわかんけど家では思い出せなかった」と話していた。

書けた漢字の割合は、上がってきている。

10月、11月と、1回の日記に10個以上の漢字をほぼ毎回使えるようになってきた。

	漢字の平均文字数	書けた漢字数 平均)	割合(%)
4月	8.4	0.8	9.52381
5月	11.75	2	17.02128
6月	10.8	4.8	44.44444
7月	10.3	7	67.96117
9月	9.8	4.6	46.93878
10月	13.7	12.8	93.43066
11月	15.7	15	95.5414
12月	12.5	11.5	92
1月	12.3	12	97.56098
2月	14.3	13.6	95.1049

良かったこと

- iPadを導入するまでも、もちろん漢字の直しはしていたが、自力で調べたり思い出したりすることが難しかった。
- 赤ペンで直したり、メモに書いたものを渡したりして直していたが、毎日のように同じ字を直していても、なかなか定着しなかった。
- iPadを使って「自分でできる」という自信がついてきたように思う。そういう発言も増えている。
- 直すことを以前のように嫌がらず、進んで調べたり直したりするようにもなってきている。
- 「書ける場面が増えてきた」「よく漢字を使うようになってきた」と感じていたが、こうして数字に表わしてみて、改めて実感した。

漢字の学習で
活用している5年時のBさん



4年時の「使う頻度の高い漢字の定着が進む」は、概ね達成されたので、次の目標へ

【Bさんの5年時の目標】
読める漢字を増やして、語彙を広げていく

5年からの取り組み

自作漢字カード



- ①漢字ドリルを見ながら、カードの漢字面を打ち込む。
- ②読み仮名面を打ち込む。

カード作成の段階で、何度もドリルを確認！
さらに打ち込んで変換、打ち込んで無変換と、
打ち込みながら確認！

良かったこと

- 以前は、漢字練習をしても、今練習した漢字の読みを今答えられなかった。
- 担任が作った漢字カードを練習に使っていたこともあるが、「答えを見て確認していい」というルールでくり返していても、なかなか定着していかなかった。
- それが、ドリル作成の段階で何度も漢字と読みを見比べて確認することで、まず練習してすぐのものが答えられるようになっている。
- また、iPadを持ち帰って、家庭でも宿題として読みの練習をすることで、以前なら考えられなかったような漢字を読める場面も増えている。
- 単元に入る前に新出漢字をこの方法で学習しておくことで、音読もスムーズになってきている。

次のステップへ

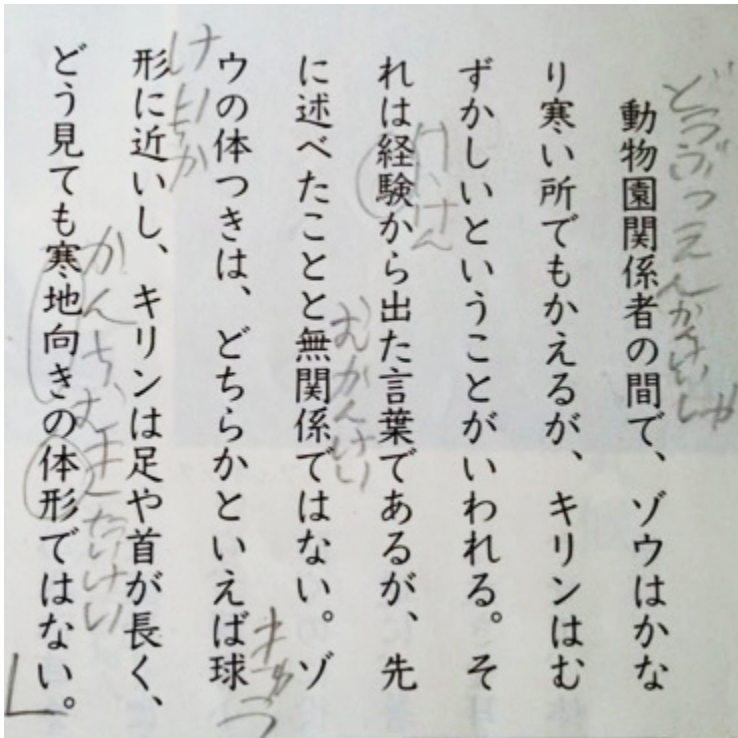
- ・自作漢字カードの練習はB児に有効だと感じているが、5年生の教科書には、今まで覚えてこなかった漢字もたくさんある。そのため、新出漢字は読めるのに、易しい漢字が読めない場面が出てきた。

5年からの取り組み

音読への広がり

☆Bさんの音読の状況

- 読めない漢字がとても多い。
- 「重い」「六つ」といった比較的優しい漢字も読めないものがある。
- 読めない漢字にはルビを自分でふっているが、読みにくい様子。



- 毎日、宿題で音読をするが、ぼそぼそと小さい声で何を言っているのかわからない。(家庭より)
- 毎日読んでいても、ルビを消すと読めない。
- 内容を聞かれても、首をひねることも多い。



- i暗記を使って、読めない熟語を全てカード化。
- 毎日の音読の前に、カード練習を行う。
- カード練習をクリアしてから、音読。
- 教科書にはルビを振らず、思い出せなかったときは聞く。

世界でいちばん やかましい音

最初に読めなかった熟語52個。

既習だが読めなかったもの

- ・都・開けば・集まる・歌・昼間・王子様
- ・六つ・大人・軍楽隊・不満・全員動員
- ・全部・戸・同時・何百万・何千万・実現
- ・最初・電報・伝書・間もなく・返事・正確
- ・何月・連中・悪気・近所・回りよう
- ・台なし・広場・集会場・注ぐ・極・以来
- ・庭・指さす・気に入る・自まん・歴史
- ・時計・聞く・積む

新出漢字

電報・職場・賛成・現在・再開・耕す・志す・快
い・群れる・歩む



良かったこと

- 毎日の家庭学習に位置づけることで、確実に読める漢字が増えている。
- 漢字が読めるようになって、音読の流暢性が驚くほどあがっている。また、それに伴って、意味理解もスムーズになって来た。
- 新しい単元に入る一週間前程度からこうした取り組みを繰り返しておく事で、学習がスタートした時には、5年生の教科書がほぼすらすらと読める状態になっている。

良かったこと

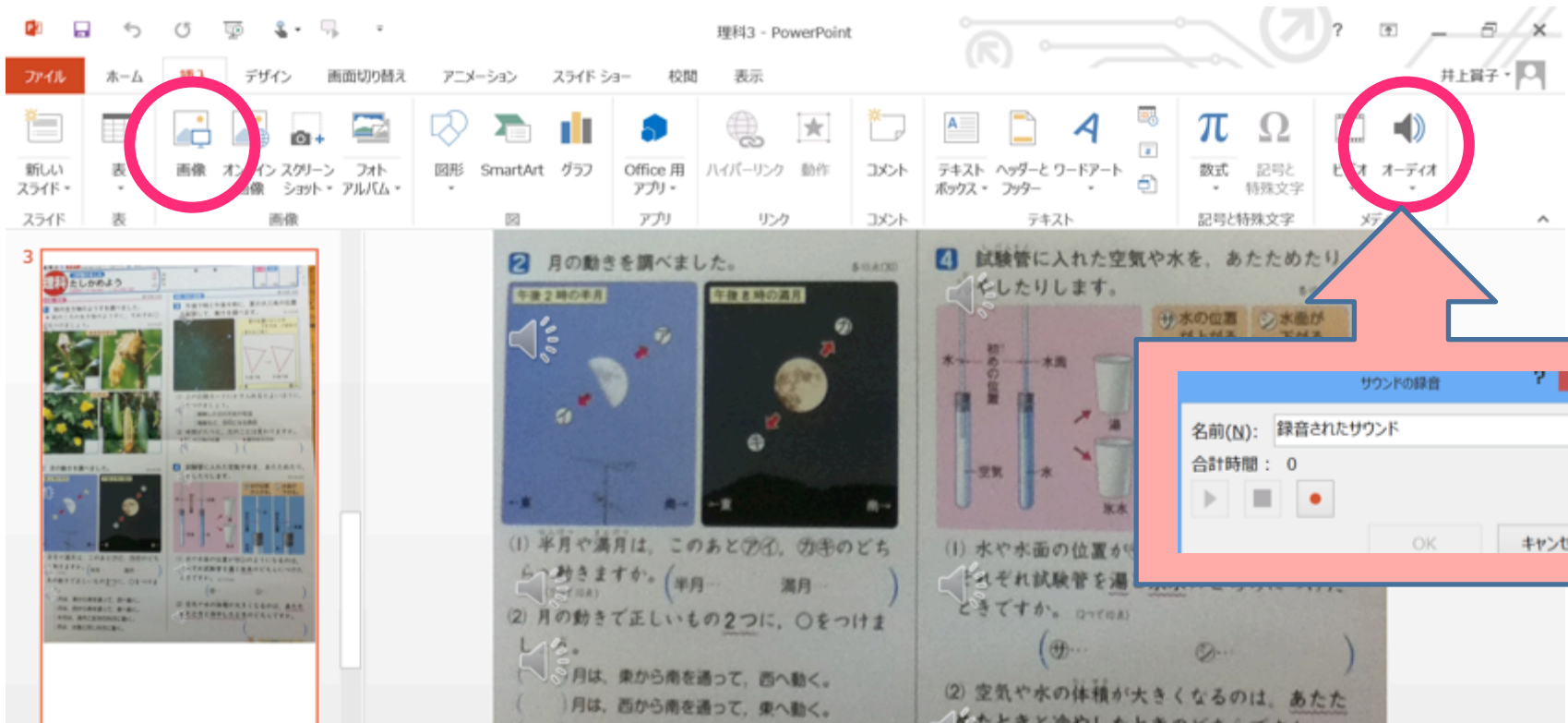
- 「漢字が読める」状態での音読の様子から、B児の音読や意味理解の際に見られた課題の多くは、「漢字が読めない」ことから来ていたことがわかった。漢字が読めることで、その先の学習が、とてもスムーズになってきている。
- 2学期から単元に入る前の漢字の事前学習を支援学級で行った上で、国語は交流学級で行っているが、特に個別の配慮がなくても、問題なく参加できている。

「読み」の苦手さを補っての
取り組みから「評価」を考える



挿入→画像でテストの写真

挿入→オーディオ→オーディオの録音で音声データ



スライドショーを実行せずに「作成画面」のまま使うことで、拡大しての表示に読み上げがつけられる

理科 2学期のまとめ たしかめよう

1 秋の生き物のようすを調べました。

- 秋のころの生き物のようすに、それぞれ○をつけましょう。

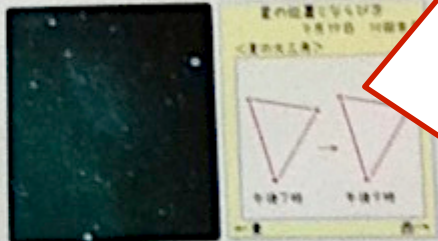


2 月の動きを調べました。



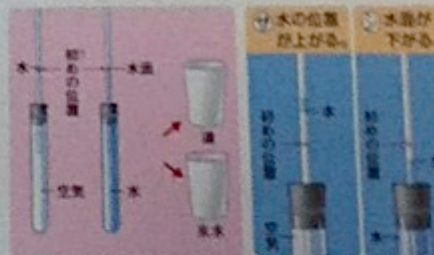
- (1) 半月や満月は、このあとが子、のちのどちらへ動きますか。(半月-ア 満月-カ)
- (2) 月の動きで正しいもの2つに、○をつけましょう。
- 半月は、東から南を通過して、西へ動く。
 - 半月は、西から南を通過して、東へ動く。
 - 半月は、満月と反対の向きに動く。
 - 半月は、太陽と同じ向きに動く。

3 午後7時と午後9時に、夏の大三角の位置を観察して、動きを調べます。



- (1) 上の記録カードにかき入れるとよいほうに、○をつけましょう。
- 観察した日の天気や気温
 - 電線など、自印になる景色
- (2) 時間がたつと、次のことは変わりますか。
- 夏の**大三角の位置** (変わる)
 - 星の**ならび方** (変わらない)

4 試験管に入れた空気や水を、あたためたり冷やしたりします。



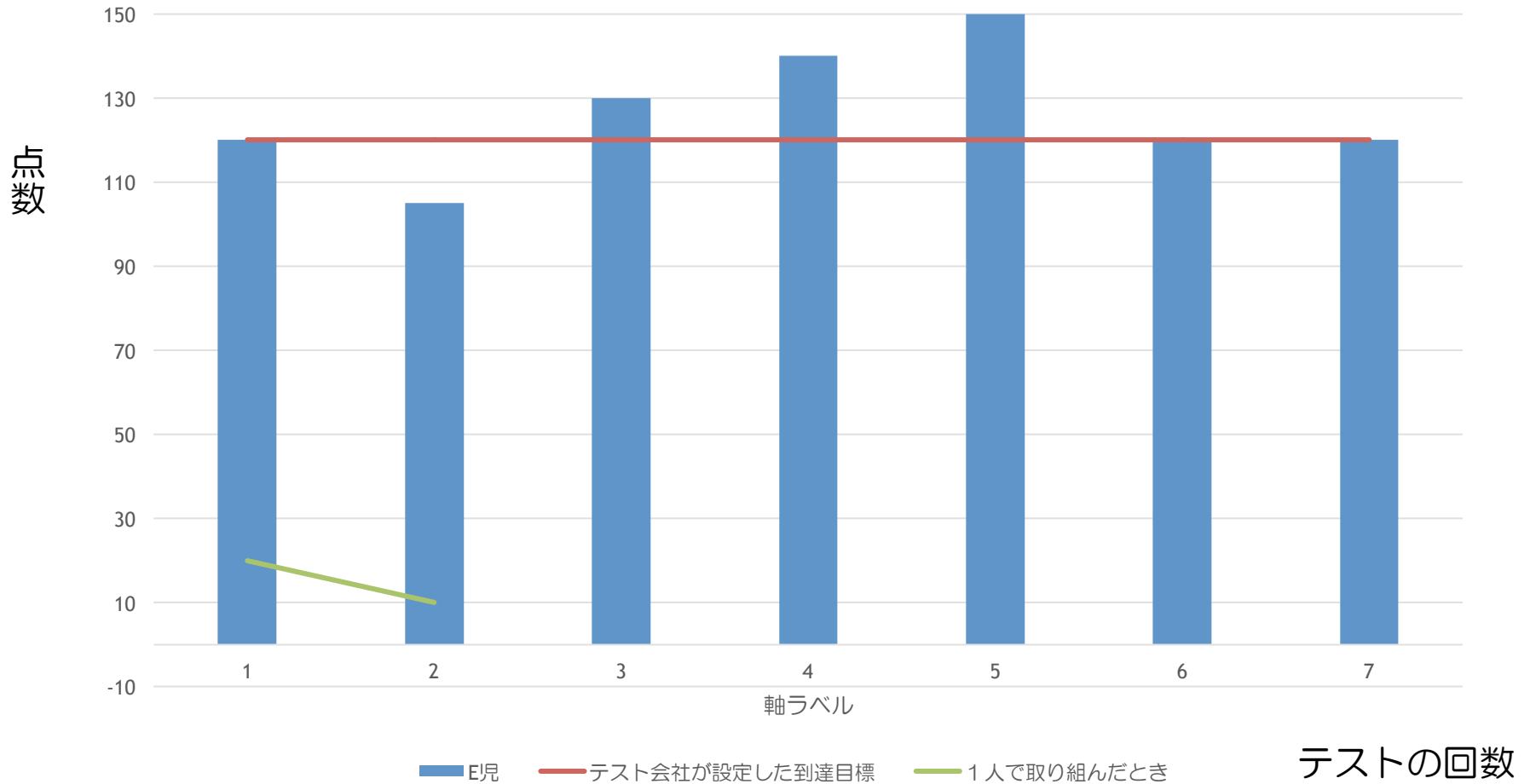
- (1) 水や水面の位置がさじのようになるのはそれぞれ試験管を温と氷水のどちらに付くときですか。 (温)
- (2) 空気や水の体積が大きくなるのは、あためたとときと冷やしたときのどちらですか。 (あためたと)

- 読み上げさせながら、1人で取り組んだ
- 理科の学期まとめのテストであり、かなり前に学習したことも含まれている
- 1問だけ間違い、90点



Eさんは理解できている!

E児の理科テスト結果(表裏で150点満点)



2回目まではまず教室で一人で取り組み(緑線)その後担任に読み上げてもらってテストを受けた。3回目以降は、音声付きのテストを作成し、一人で取り組んだ。

今のテスト

ほとんどが「読む」ことで入力し「書く」ことで出力する。

「読み」の困難のため、たとえ理解できている
事柄であっても、問題へアクセスできず、
答えられない



点数が取れない



正当な評価が受けられない

「読み上げ」という方法は、本児にとって正
当な評価を受ける上でも不可欠!

同じ「音声入力」でも

☆助けになった

○「自分図鑑」「○×日記」の活動。

- どちらも「自分で考えたこと」を入力して行く場面。

- 書きたいことがイメージできていれば、音声入力はスムーズに使えて助けになった。

☆助けにならなかった

○テストの解答。

- 読み上げで解答へのイメージはできていても、問題文にある言葉を覚えている訳ではない。

- 見て確認しながらは書けても、文章を覚えて入力することも、見て「読み上げて」入力することもできないため、助けにはならなかった。

「書けない→音声で入力すれば助けになる」と安易に考えていたが、違っていた。

- それぞれの「書く」場面に求められている要素
- 子どもの困難な部分

の両面をきちんと捉えての検討が必要だと痛感した。

「ICTを使えば解決」ではないことを自戒

書きの苦手さへの手立てで
活用している1年時のDさん

学び方の特性の
仮説につなげる活用



Dさんの読み書きの状況

【読み】

- 読むことはできるが、あまり意欲的ではない。くり返すことを嫌う。
- 語彙は豊富、大人びた言葉もよく知っている。

【書き】

- ひらがなが全部書ける状態で入学してきたが、お手本を見ながらでも形が取れなかったり、線のつながりや構成をとらえられなかったり、書き順が違っていたりする。
- マスの中に文字を収めることが難しい。左利き。

【Dさんの目標】

ひらがな文字の書字を習得すること

app おえかキロクを活用



書いたものを動画として記録再生できる。
もともとはお絵描きのapp。

Dさんの文字の書き方を動画で記録



せ



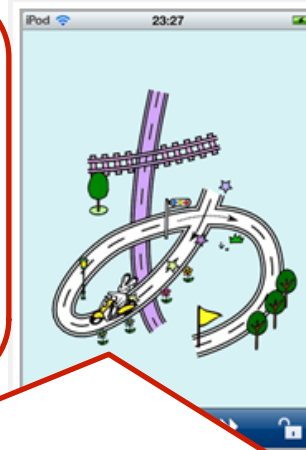
app ナゾルート・モジルートを活用



文字を構成する要素になる、色々な線をなぞり書きする課題として活用。



多感覚を利用して、書き順・線の方向性・重なりなどを意識づけることができる課題として活用。



ポイントになる部分には、ちょっとしたガイドがつくので、意識をもちやすい。

良かったこと

- 線の方向性やつながりを、視覚・聴覚の刺激を入れながら確認できた。
- 乗り物が大好きな子なので、ナゾルート・モジルートには、集中して繰り返し取り組めた。
- 「道から落ちると車が通らない」というシステムは、Dさんにとってとても納得できるものだった。
- DSも併用し、ほぼひらがなは正確に書けるようになってきた。
- D児の学びやすさに即した、他の教材の開発につながった。



書きの苦手さへの手立てで
活用している2年時のDさん



1年時の「ひらがな文字の書字を習得すること」は、概ね達成されたので、次の目標へ

【Dさんの2年時の目標】
お手本を見ながら正しく漢字が書ける

2年からの取り組み

ドリル学習にアプリを活用



新出漢字のドリル練習に、アプリを使った学習をセットで取り入れた。

「今日の漢字」

- ⇒ドリルを見ながらアプリの漢字一覧から探す
- ⇒アプリで練習
- ⇒アプリでテスト
- ⇒ドリルで練習

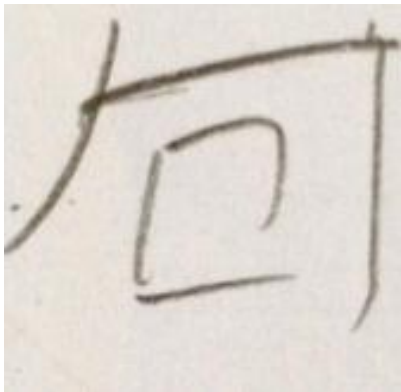


漢字の書きの練習ができる。

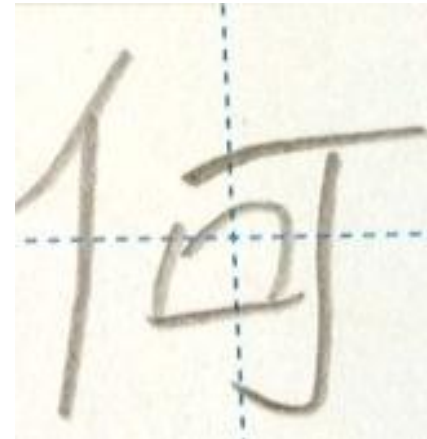
- 熟語を音声で確認
- 書き順を動画で確認
- 始点と終点が示されるので、それを手掛かりに5回なぞり書き
- テストで確認できる。

良かったこと

- 間違いにその場で気づいて修正できる。
- 間違い続けない。
- 正しく繰り返すことができた。
- テストの場面で「間違いはどこか」をドリルを見て確認しようとする姿が見られた。
- 自分で探して見つけ出すプロセスを踏むことでより正しい書き順や線の関係を意識づけることができると感じている。



形の説明を聞いて空書きをし、お手本を見ながら書いたもの



IPadで練習した後に書いたもの

D児の変化を感じた場面から

- 2年生になり、画数が多かったり線の関係が複雑だったりする漢字が急に増えている。混乱するだろうと予想していたが、「事」「教」といった漢字を、意外なほどスムーズに書けている。
- 以前の「せ」のように反対から書いたり、線を不自然な場所で接いで書くことが、かなり減ってきているので、書いている途中で大きく混乱することが少なくなってきたのではないかと、感じている。



2学期からの取り組み



- Paintone
を使ってのテ
ストの実施

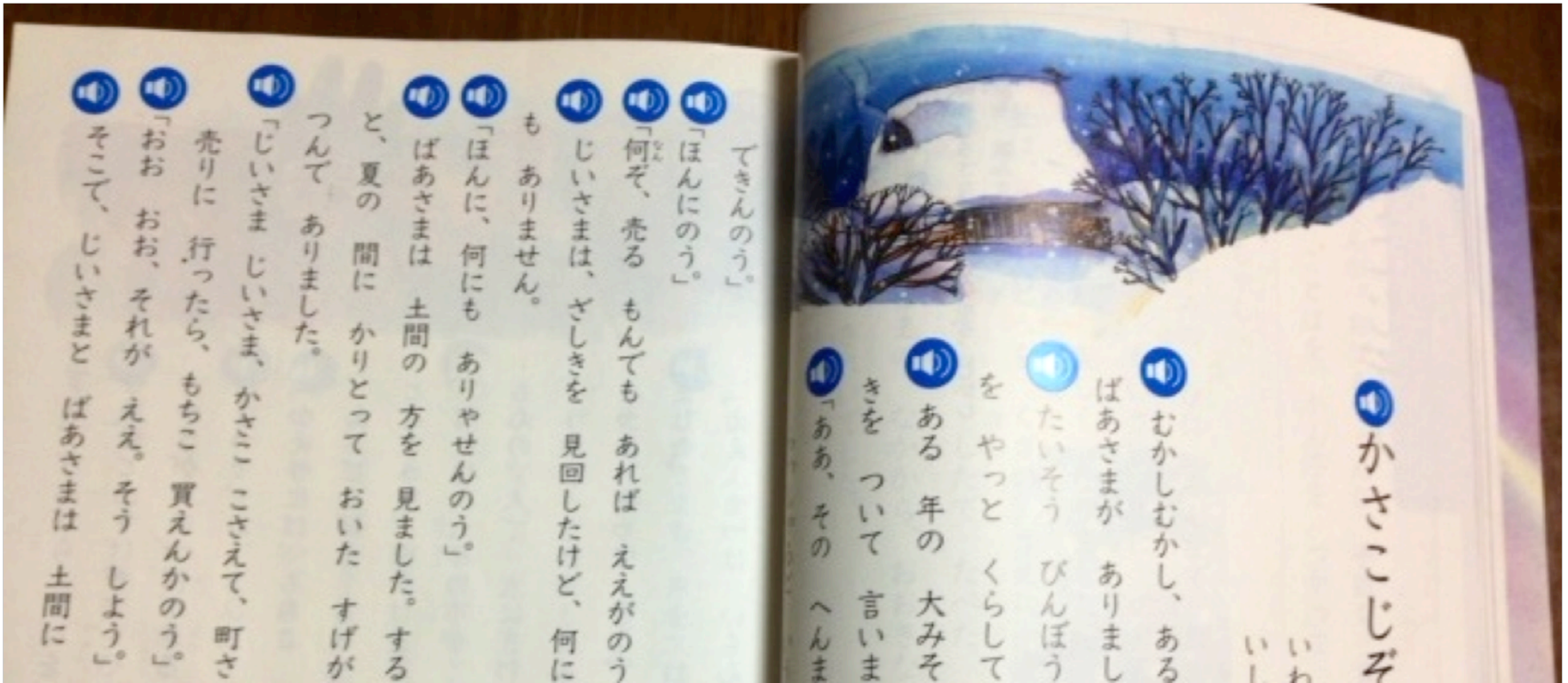
- サトシくん
を使っての音
読支援

読み上げペン サトシくん



- 音声を録音したシールをペンでタッチすると、その内容を再生することができる。
※コムフレンド

<http://www.com-friend.co.jp/products/communication/yomiagepen.html>



教科書にシールをはって、
そこに音声の情報を入れておき
、再生させて音読する。

良かったこと

- 音の手助けがあることで、安心して課題に取り組めた。一人でもやり切れることが、自信になっている。
- 活用状況を観察していると、ただ聞いて考えるのではなく、「聞きながら目で追う」姿が見られた。
- 音のイメージを持ちながら目で追うことで、読みやすさが支えられ、意味理解がスムーズになっている。



ここからの事例の資料は魔法のプロジェクトのホームページをご参照下さい

魔法のプロジェクト
障がいを持つ子どものためのモバイル端末活用事例研究

ホーム お知らせ プロジェクト フォーラム アプリレビュー その他

はじめに

「魔法のプロジェクト」サイトについて

本サイトはこれまでの「魔法のポケット」「魔法のふでばこ」「魔法のじゅうたん」「魔法のランプ」の活動および成果に加え、「魔法のワンド」の進捗報告など、「魔法のプロジェクト」の実証研究により検証された活用事例のご紹介と、日々増えていくアプリケーションの評価の共有を目的としています。

魔法プロジェクト実証研究校の皆様が使われたアプリケーションの評価とご意見をご覧いただけるアプリケーション・レビューサイトはこちら

プロジェクト概要



東京大学先端科学技術研究センターとソフトバンクグループは、携帯電話・スマートフォン等の情報端末の活用が障害を持つ子どもたちの生活や学習支援に役立つことを目指し2009年8月から「あきちゃんの魔法のポケットプロジェクト」をスタートしました。

「あきちゃんの魔法のポケットプロジェクト」では、研究成果として、障害のある子どもたちとのコミュニケーションを通し、携帯電話の機能に対応した様々な障害（発達障がい、知的障がい、聴覚障がいなど）のある子どもたちのための活用事例をまとめた携帯電話活用マニュアル「障害のある子どもたちのための携帯電話を利用した学習支援マニュアル」を作成しました。

- 魔法のワンド 全国セミナー 参加者および発表資料
- 魔法のワンド 全国セミナー 参加者および発表資料
- 魔法のワンド～研究協力校が決定
- 魔法のランプ 成果報告書を公開
- 魔法のランプ 実践事例・ポスター発表を公開しました
- 「魔法のプロジェクト2014～魔法のワンド～」がスタートします
- 魔法のプロジェクト2014～魔法のワンド～研究協力校募集要項
- 「魔法キット」販売開始のお知らせ
- 魔法のランププロジェクト成果報告会を開催します
- 「魔法のランプ」プロジェクト 全国セミナーを開催します

プロジェクトメンバー

- 株式会社エデュアス
- ソフトバンクモバイル株式会社
- 東京大学・学際バリアフリー研究プロジェクト
- その他
- NPO法人 e-AT利用促進協会
魔法のふでばこ・魔法のじゅうたん

ここから

<http://maho-prj.org>

学びやすさを支えたことで
読み・書きの習得が進んだMさん



学習機会を保障する
手立てとしての活用

学習の機会を保障する手だてとして 活用したMさんについて

- ① 「読み」の底上げと見通しを支えるツールとして
→ 「VoiceOfDaisy」「i暗記」「例解学習国語辞典」
[漢字ドリル]「Safari」
- ② 「書き」の見通しを支えるツールとして
→ 「小6かん字ドリル 楽しく学べる漢字シリーズ」
「camera」
- ③ 考えをまとめるツールとして
→ 「SimpleMind+」「7notes」
- ④ 思いを伝え合うツールとして
→ 「ByTalk」



ICTが支えてくれたもの

入力(読む)



Mさんの本来の力



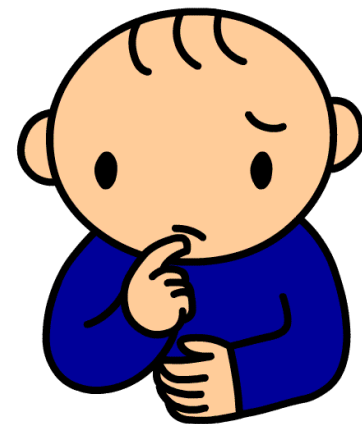
出力(書く)

- 意欲の減退
- 自己評価の低下

入力も出力も苦手さが大きかったため、本来の力をだせずにいた



できないから
課題を易しくしていく
Ex.)低学年の課題



ICTが支えてくれたもの

入力(読む)



Mさんの本来の力



出力(書く)

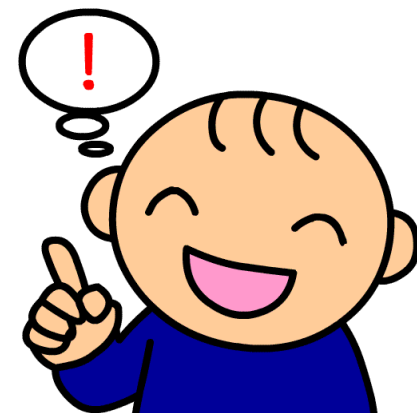
入力・出力に方法ができたことで、本来の力が出せるようになった



6年生の課題に取り組める自分
内容への興味の広がり
伝わる見通し

「できる自分」

- 意欲の継続
- 機会の保障



ひらがなへの興味を
もちはじめた！さん

学びきる手立てとしての活用



学びやすさを支える手だてとして活用したさんについて

① 「読める」を支える手段として
→ 「FirstWordJapanese」「これなあに」
「ひらがな50音」

② 「書ける」を支える手段として
→ 「こどもレター」
「にほんご ひらがな」

③ 「伝わる」を支える手段として
→ 「DropTolkHD」・「PhotoMemes」



ICTが支えてくれたもの

Aができた

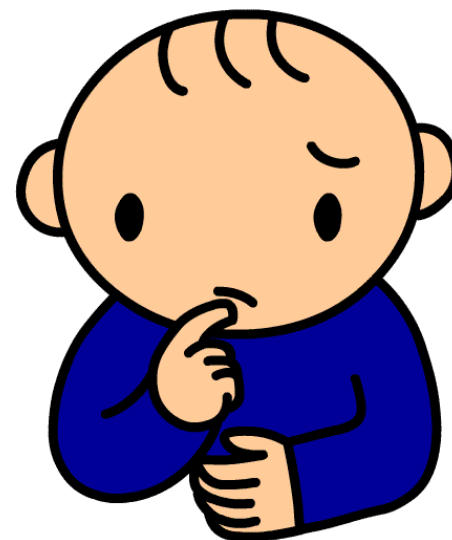


Bに進もう

Aに困難がある子は、
いつまでたってもB
に進めない

「いつまでたってもできない自分」

- 意欲の減退
- 自己評価の低下



ICTが支えてくれたもの

Aが困難



ICTでAを補いBへ

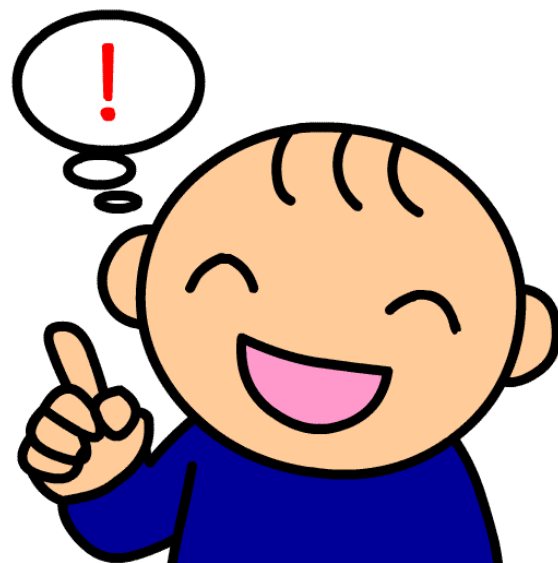


学習機会が増える中で
Aも向上

「読めない」「書けない」「話せない」さんが「読むこと」「書くこと」「話すこと」をたのしめる!

「できる自分」

- 意欲の継続
- 機会の保障



眼鏡の役割になる子もいる

- I児の姿には大きな変化が見られているが、iPadという手だてがあつての姿という部分が大きい。
- I児が「書ける」「読める」になることをスタートラインにしていたら、これほどの伸びは短期間には期待できなかったかもしれない。

外部の手段を持つ事で、
学びやすさが広がった

補助輪の役割になる子もいる

- B児はiPadを使った学習の効果が、特に顕著に見られた児童だった。
- 適した学習方法を得た事で、2年間で、適応の状態・学習状況共に大きく改善され、ほとんどの授業を交流学級の集団の中で受けられるようになり、6年生からは通常学級に籍を戻した。

学びやすさを得た事で、出せていなかった力をのばしていくことができた

眼鏡の役割になる子

- この手だてがないと、学びスタートラインにたてないということ
- 「他の人はかけてないからダメ」といえますか？

補助輪の役割になる子

- 学び方を知るために必要だということ
- 始めはみんな、「補助輪」をいきませんでしたが？

どちらのケースでも、導入を迷う必要はないと考えています

実践をふりかえって



読み・書き困難を持つ子ども達にとって、ICTの活用は

- 拡大教科書のように
- 補聴器のように
- 車椅子のように
- 杖のように
- 眼鏡のように

当たり前が必要であり、
その支えがあってやっと「学ぶスタート」に
立てるもの

「手だてがある」ということを知ってほしい

有効な学び方になっていくために

- 裸眼では見え方に課題がある
→「眼鏡が必要」までは同じでも、度は違う
- 1人での移動はバランスを崩しやすく難しい
→「杖が必要」までは同じでも、適した材質や重さ、長さは違う

支援の必要性が共通していても、その内容はオーダーメイドのはず。

「どんな困難を抱えていて」「どの部分にどんな支援が必要で」「学習場面のどこでどう用いるのか」を考えての活用が求められている。

ご清聴ありがとうございました。

iPadを使った実践は、
「魔法のプロジェクト」
の中で行ってきています。

ホームページでは、全国
の先生方が「アプリレ
ビュー」を書き込んで情
報を共有しています。

魔法のプロジェクト



<http://maho-prj.org/>

目次

就学前の記憶

住居の移住

～小学校低学年

決ることと疑うことを

覚えた口

～小学校高学年

想像で支配することを

知った

～中学時代

夢をおもひた口

～高校時代

「知られてはいけな

い」と確信した口

～社会の慣れ

成功と敗戦の中で

～社長と呼ばれて

「なぜ？」に支配され

ながら

～結婚と産む

ディスレクシアだと

知って

～仕事と遊び

ディスレクシアだと

知って

～結婚と出産

toraの「読み書き」

の特性

忘れられない、本人

の先生へ

母への思い

ある男人さんを見

て思うこと

ディスレク

オレの就職心算

～40歳での見解

INAW

成人ディスレクシア to toraの独り言



40歳で、自分がディスレクシアだと知り覚した。

教われた部分もあります。

でも、たくさんのおもひできた道を思い、身もたえするほどの口癖しさの中、眠れない夜もあります。

忘れたいのに忘れられたいくさんのシーンを、吐き出すことで少しずつ整理していきたいと思います。

同時に、今の瞬間、「読み書き」の困難に苦しんでいる子ども達が、自分のような思いをすることなく成長して欲しい、そんな思いも置けて書いています。

今日は、こうして整理してみようと思いついて、生まれて初めて44に数十ページの文章を一字一句書き出した、吐き出してしまいたい対象してきた「思い」は、30歳になってからは、重く大いですが、何十年も前のことなのに、今思い出しても奥が止まらないシーンも少なくありません。

思わなかった自分への後悔もたくさんあります、でも、あの時は「そうするしかない」と覚悟にも似た思いに駆られていたのも事実です。

もし自分の障害を知っていたら、教育の機会が保障されていたら、私はおそらく自分を遣い込まずに大人だのではないかと、何もかもをおもひで書かずには大人だのではないかと、教ってほしいのは、今の「私」ではなく、もがいていた子どもの頃の「オレ」です。

長い、とても長い間、自分は「文章」を書いたことも書こうと思ったことも、書けると思ったこともありませんでした。

パソコンや携帯に出会い、「マヤな文字」「漢字の間違い」から解放されたことで、短い文章を必要に応じて少しずつ打つことはできるようになっていきましたが、それでも、思いを全て吐く文章に起こしていくことは、なかなか難しい現実があります。

今日は、自分が書いたものを奥に読んでもらい、さらに当時の様子を書き添えることで、読者に文章としては再構成してもらいながら、二人でこのページを歩いています。

成人ディスレクシアtoraの独り言

http://sky.geocities.jp/dyslexia_tora/

ご清聴

ありがとうございました

